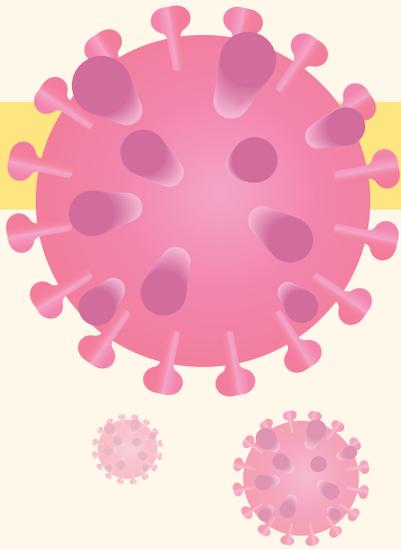


# 新型コロナワクチン

COVID-19ワクチン

毎年の接種について



## 新型コロナの流行は現在も続いています

今後も大きな流行がやってくる可能性があります。その対策として重要なのがワクチンです。特に、高齢者や何らかの病気で治療を受けている人では、重症化するリスクが大きくなっています。ワクチンを受けることを強くお勧めします。新型コロナワクチンには、効果もありますが、好ましくないこと（副反応）もあります。



### 発症を予防する効果があります

流行する新型コロナウイルスに感染して発症するのを予防する効果があります。この効果は100%ではなく、ワクチンを接種しても発病することもあります。

### 症状を軽くする効果があります

発症した場合も重症化したり、入院になったり、死亡することを減らす効果がみられています。また、ワクチンを繰り返し接種した人では、かかった時に最高体温が低くなる傾向や、症状の期間の短縮が期待されます。



### 副反応はありますか？

#### 接種した場所での反応

#### 局所の反応

痛みは程度の差がありますが、ほとんどの人で感じられます。腫れや硬くなる感じは半分くらいの人で、熱感と痒みは2割くらいの人でみられています。

#### 全身の症状

#### 全身性の反応

37.5度以上の発熱は数%です。倦怠感や頭痛が2割から3割程度の人にみられます。

#### 副反応の経過

これらの副反応は、ほとんどの場合に治療を必要としないで48時間以内に改善しています。一般に接種回数が増えると副反応は軽くなっています。

#### 特別な副反応

アナフィラキシーと言われる、急で少し重篤な副反応が知られています。接種してから30分以内に起こることがほとんどで、必要に応じてその場ですぐに治療がされます。

副反応の詳細は、裏面をご覧ください。

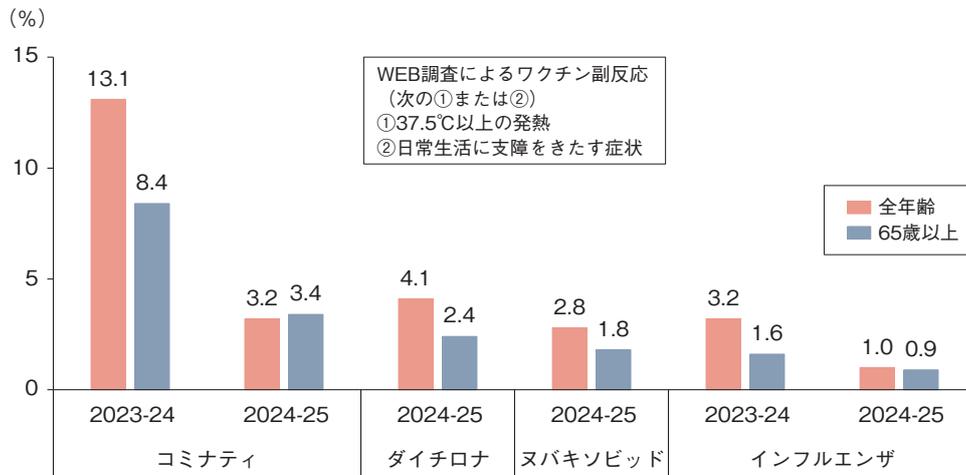


日本臨床内科医会

Japan Physicians Association

## 新型コロナワクチンの副反応

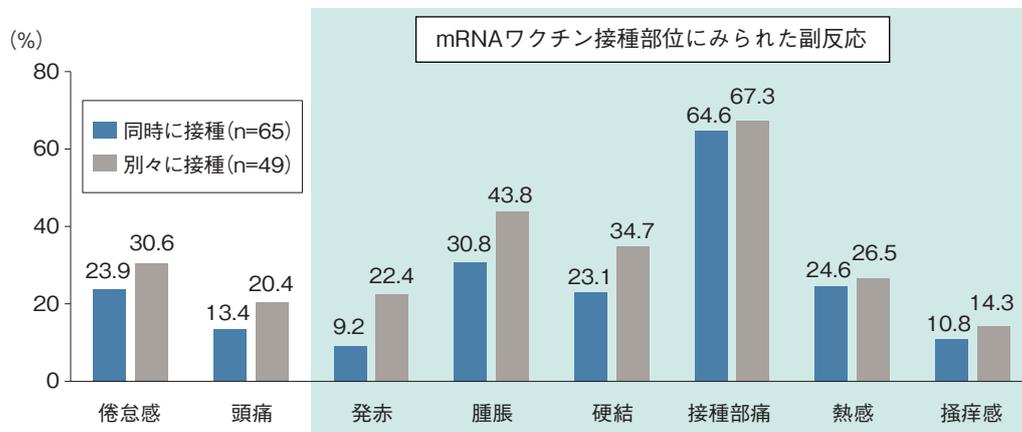
副反応の頻度は2023-24年シーズンより減少していました。65歳以上では、どのワクチンの接種でも**日常生活に支障をきたすことは少ない結果**でした。インフルエンザワクチンよりは頻度は高い結果でした。



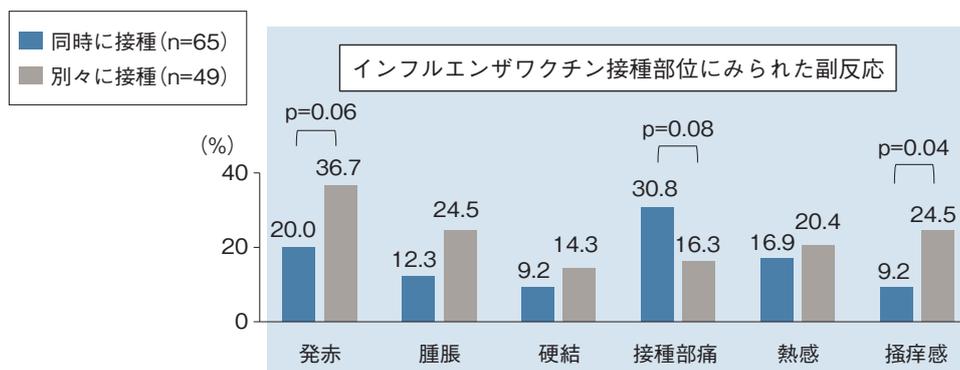
COVID-19ワクチンとインフルエンザワクチン接種後の副反応の頻度  
(WEB調査, 2023-24年および2024-25年シーズン)

## インフルエンザワクチンとの同時接種した時の副反応

65歳以上の高齢者に両ワクチンを**同時に接種**した場合と、**別々に接種**した場合では、同時に接種した場合、局所の副反応と全身性の副反応の頻度は、**別々に接種した場合より低い傾向がみられています**。



(注：全身反応は両ワクチン共通)



COVID-19 mRNAワクチンとインフルエンザワクチンの同時接種と非同同時接種の副反応の頻度  
(日誌調査, 2024-25年シーズン, グレードI以上)